人・往来

五十嵐　和代さん

（五十嵐商会
代表取締役社長）

警備はもとよりビル清掃や廃棄物回収まで、ビルメンテナンスを総合的に展開する五十嵐商会の五十嵐和代社長。先代社長の遺志を継いで廃棄物のリサイクル施設を建設するなど、その多角経営の経歴にスポットを当てた。

―会社の概要を教えてください。

「先代社長に当たる父が、昭和36年にバキュームカー1台で浄化槽を清掃する会社を始めました。事業を拡大する一方、下水道が普及することで、この事業は縮小していくことを父は予見していました。そこで目を付けたのがビルでした。ビルはなくなることはありませんし、当然維持管理が必要です。建物や浄化槽の清掃を手がけたのを皮切りにゴミの収集・運搬、害虫駆除などの環境衛生、施設警備や駐車場管理などの警備業と、ビルに関する総合的で快適な環境づくりを目指して経営の多角化を図ってきました」。

指導者に教えるコツを教える

―先代は12年前に亡くなったとお聞きしました。

「亡くなった後、私が2代目の社長に就任しましたが、父には一つだけ志半ばで実現できなかったことがありました。それは、生ゴミを肥料に変えるリサイクル工場の建設です。現在では食品リサイクル法が施行されて、生ゴミのリサイクルは廃出事業者に義務化されていますが、父には先見の明があったんですね。現在、この工場で約180校の学校給食の生ゴミを肥料に変えて全国に出荷しています。生前の父の構想をここまで実現できたという意味で、親孝行できたのかなと思っています」。

―学校を出てすぐに入社したのですか？

「はい。23歳の時に指導教育責任者の資格を取り、教育に携わるようになりました。顧客からのクレームをまとめてみると、警備員の礼儀やマナーが悪いという内容のものが多いことに気付きました。しかし、企業研修の講師を外部に依頼すると非常に高額だったため、講師養成学校に通い、企業研修講師になったのです。五十嵐商会にも所属しながら10年ほどの間、月に4～5回は一般企業で講師を務め、そこで人材教育の大切さを実感しました」。

―その経験から東京都警備業協会でも研修会の講師を務めているのですね。

「企業研修講師のときの経験を生かし、警備業向けのマナーやマネジメントなどの講演をしています。私が教えているのは、指導教育責任者などの教える立場の人に、〝教えるコツを教える〟ことです。あの人は覚えが悪く、いくら教えても理解しないとを訴える上司の声を耳にしますが、本当に部下がだめなのでしょうか？　教える側が悪ければ、部下も理解することができません」。

―警備員教育の現場でもあてはまりますね。

「新任の警備員に最初に教えなくてはいけないのは、敬礼の仕方ではありません。敬礼のような技術を教える前に、まずは心構えから教えなくてはいけないのです。警備員として必要な安全意識を持つことから指導するんです。人は自分で気付かないと行動を変えようとしません。研修を通じて〝あっ、そうか！〟と気付いてもらうことが、私の行う研修の目的です。管理者のレベルアップが、業界の課題の一つだと思っています」。

【聞き手・写真　海野芳久】

【プロフィール】（いがらし・かずよ）。昭和37年生まれ。東京都練馬区出身。企業研修講師を経て昭和60年に五十嵐商会入社。平成13年に代表取締役就任。光が丘警備業連絡協議会会長。光が丘警察防犯協会副会長。東京警協北西地区の教育委員。趣味は水泳。亡父・真一さんは平成10年、環境衛生の向上に寄与したことから藍綬褒章を受章した。

●担当者のひとこと　先代社長の遺志を継いで、快適なビル環境整備を提供する同社。他社にはできない新機軸の多角経営で業界全体を盛り上げてもらいたい。